

2. 宗 教 生 活

(1) 今宮神社氏子としての西陣学区住民

西陣学区住民が社寺参詣の対象とする社寺や頻度は表Ⅶ-2-1の通りである。これによると社寺名を挙げた715のうち、今宮神社240名、32.5%、これにつぐ北野神社70名、9.5%の二社だけで310名、42.0%を占める。さらにこれら二つの神社は、西陣小学校まで、ほぼ等距離の約1,400メートルで、バスを利用しても所要時間はそんなに変わらない。それにもかかわらず、両神社参拝者の実数に相当大きな差のあることに気が附く。西陣学区は、今宮神社の氏子圏に含まれ、古くから今宮神社と密接な関係にある。そして、今宮神社の御旅所は、この学区のすぐ近くにあり、やすらい祭り在地の一つ、雲林院町（もと雲林院村）も御旅所に隣接している(表Ⅶ-2-2)。

このように、今宮神社と西陣学区には特別の結びつきがあると考えられる。京都の市街地は延宝・元禄(1673~1704年)のころには、北は鞍馬口通り、南は七条通り、東は鴨川、西は大宮通りを四辺とする区域であったが、この中で、今宮神社は、西陣を中心とする都市部と北西部の農村部の両方をすでに氏子圏としていた(京都市編『京都の歴史』6、学芸書林、昭和48年、p.383)。現在の西陣学区区域は、大宮通

表Ⅶ-2-1 参詣者社寺別内訳

今 宮 神 社	240	32.5%
北 野 神 社	70	9.5
上 賀 茂 神 社	19	2.6
下 鴨 神 社	2	0.3
白 峰 神 社	5	0.7
吉 田 神 社	10	1.4
平 安 神 宮	11	1.5
愛 宕 神 社	5	0.7
八 坂 神 社	17	2.3
上 御 霊 神 社	1	0.1
伏 見 稻 荷	19	2.6
その他の神社	37	5.0
東 本 願 寺	4	0.5
不 明	24	3.2
計	739	100.0

表Ⅶ-2-2 今宮神社氏子圏内の元学区

鷹 ヶ 峰	待	鳳	鳳	徳
紫 野	楽	只	柏	野
成 逸	室	町	乾	隆
西 陣	翔	鸞	嘉	楽
小 川	仁	和	正	親
聚 楽	出	水	待	賢
桃 蘭				

注 「今宮神社由緒略記」p.9.

表Ⅶ-2-3 今 宮 祭 鉾 町

	元 学 区 名	町 名	所 在 地
1. 沢 瀉 鉾 (おもだかぼこ)	嘉 楽 学 区	上善寺町	上・千本今出川上ル
2. 竜 鉾 (りょうぼこ)	乾 隆 学 区	西 五辻東町	上・千本五辻下ル
3. 牡丹 鉾 (ぼたんぼこ)	"	牡丹鉾町	上・千本五辻上ル
4. 柏 鉾 (かしわぼこ)	"	作 庵 町	上・千本上立売上ル
5. 枇 杷 鉾 (びわぼこ)	"	花 車 町	上・千本寺之内上ル
6. 松 鉾 (まつぼこ)	"	歓 喜 町	上・寺ノ内北裏大宮西入ル
7. 菊 鉾 (きくぼこ)	成 逸 学 区	西千本町	上・寺ノ内北裏大宮東入ル
8. 扇 鉾 (おおぎぼこ)	"	東千本町	上・寺ノ内北裏知恵光院西入ル
9. 剣 鉾 (つるぎぼこ)	桃 菌 学 区	五 辻 町	上・五辻大宮西入ル
10. 蝶 鉾 (ちょうぼこ)	"	観 世 町	上・大宮五辻下ル
11. 蓮 鉾 (はすぼこ)	"	芝大宮町	上・大宮五辻上ル
12. 蔡 鉾 (あおいぼこ)	西 陣 学 区	東石屋町	上・五辻大宮東入ル

注 「今宮神社由緒略記」 p. 15.

り以東に位置しているから、この時代には、今宮神社の都市部氏子圏にすでに入っていた。

享保二年(1717)になると、氏子圏は、東は堀川通り限り(ただし、一条通りより北は小川通りの西側限り)、西は七本松通り限り、南は二条通り北側限り(二条御城番の北の方御役番まで)、北は鷹ヶ峰千束村上限りとなり、現在の氏子圏が確立された。現在では、今宮神社氏子区域には、19の学区が含まれ(表Ⅶ-2-2)、なかでも、今宮祭りの巡幸にでる鉾を所有するのは、嘉楽・乾隆・成逸・桃菌・西陣の5学区、12町内である(表Ⅶ-2-3)。

今回の調査対象地西陣学区の東石屋町には、今宮祭の巡幸に参加する蔡鉾がある。東石屋町はいわゆる鉾町であって、同町の鉾、桃菌学区五辻町の剣鉾、同観世町の蝶鉾、同芝大宮町の蓮鉾の4つは、京鉾と呼ばれ、巡幸には、年毎に交代で先頭になつ。残る8つは、後に氏子圏に編入された地域の鉾で、千本鉾と呼ばれ、いずれも巡幸では、京鉾につづき、扇鉾は、毎年、最後尾につく。このように、西陣学区の鉾が、京鉾と呼ばれることからして、西陣学区は古くから西陣の中心地であったことが判る。

現在でも、西陣学区からは、他の17学区と同様に、総代三名が、5月5日～15日にかけ毎年行われる今宮祭りの世話役にあたっている。実際、今年(昭和58年)も、今宮神社社務所から、各町内会長に宛てた、町内回覧用の今宮祭を知

らせるビラが、4月1日付で配付されている。このように、今宮神社と西陣学区・西陣の間には、古くから現代にいたるまで、強い結びつきが連綿とつづいてきたのである。

ところで、七本松通りで氏子地域の境界を接する北野天満宮は、毎月25日に祭礼が行なわれ、京都市では、南の東寺21日と並ぶ、北部を代表する参拝者の多い神社の一つである。北野神社の主要な祭礼日の参拝者数は、表Ⅶ-2-4、5の通りであるが、昭和58年は、正月三箇日だけでも、45万人の参拝者を集めた。この他にも近頃では、とくに1～3月の日曜日には、関西一円から、祭礼日と同様に参拝者がきて願いご

表Ⅶ-2-4 北野天満宮参拝者数(1)

1月25日 (初天神)	10万人
2月～11月 毎月25日	8万人
12月25日 (終い天神)	10万人
梅 花 祭	10万人
瑞 き 祭 10月1日～4日 (御旅所を含む)	8万人

注 昭和57年，北野天満宮調べ

表Ⅶ-2-5 北野天満宮参拝者数(2)

元 旦 (大海日を含む)	20万人
二 日	15万人
三 日	10万人
四 日	5万5千人
五 日	2万人
六 日	1万5千人

注 昭和58年，北野天満宮調べ

表Ⅶ-2-6 今宮神社参詣者数

初詣(三箇日)	昭和58年1月1日	7,500人	} 17,500人
	" 2日	5,000人	
	" 3日	5,000人	
やすらい祭	昭和58年4月 第二日曜	1,000人(昭和57年 は2,000人)	
今宮祭神幸祭	昭和58年5月5日	2,000人(昭和57年 は1,500人)	
今宮祭還幸祭	昭和58年5月15日	300人(昭和57年 は300人)	
計		20,800人	

注 昭和57年, 昭和58年, 上鴨警察署調べ。

とをして絵馬を掲げたり, お払いを受けたりしている。

一方, 今宮神社への参詣者は, 表Ⅶ-2-6の通りであるが, 正月三箇日で17,500人, これを含めて, 年間20,800人である。やすらい祭と今宮祭は, 昭和57年, 3,800人, 58年, 3,300人と例年一定の参詣者を集める。以上の通り, 受け入れ側の今宮神社・北野神社における参拝者の実数は, 相当の隔たりをもっているが, それにもかかわらず, 西陣学区の居住者は北野神社より今宮神社へ多く参拝している。これは, この学区が古くから, 今宮神社の氏子域に含まれていたことに基づいていて, 住民の氏子意識が働いている証左であろう。

(2) 西陣学区住民の社寺参詣

i) 社寺参詣とその理由

表Ⅳ-2-7は, 社寺参詣と参拝理由の関係を

表わしたものである。これによると, 人びとが社寺へ参拝するのは, 初詣と節分のように1年1度の祭日や, 願いごとが心の中に生じて, 社寺に出向く必要性のある場合である。祭礼の日の参拝実数が初詣や節分などより小さいのは, 神様そのものが神社を留守にしたり, 巡幸や行列が祭りの中心となっていて, わざわざ神社や寺に足を運ばなくてもよいからであろう。お宮参り・七五三の祝い, 十三参り, 結婚式などの年齢にかかわる参拝は, 母集団が小さいことを考えにいなければならない。厄払いは, 年齢に関係のある特別な厄払いと, 一般的な厄払いの2つの側面があるから, 七五三・十三参りなどよりは大きい, 初詣や節分より小さな実数となって現われたと思われる。

西陣学区の住民は, 初詣に今宮神社を選ぶ割合が4割近くある。つづいて, 北野神社・上賀茂神社・伏見稲荷など, 毎年, 初詣参拝で賑わう神社の名が挙がっている。なかでも, 北野神社や上賀茂神社より伏見稲荷が少ないのは, 西陣学区から伏見稲荷までの距離が遠いからであろう。

節分の日には, 人びとは他のどの神社よりも吉田神社に出かける割合が高い。吉田神社の節分祭が, 京都では, 古くから特に名高いからである。しかも西陣学区の住民が吉田神社に参拝するのは, 節分祭にほぼ限られるといってもよい。

表Ⅶ-2-7 社 寺 名 と 参 拝 理 由

(%)

	1 今宮 神社	2 北野 神社	3 上賀茂 神社	4 下鴨 神社	5 白峰 神社	6 吉田 神社	7 平安 宮	8 愛宕 神社	9 八坂 神社	10 伏見 稲荷	11 その他 の神社	12 寺院	13 その他 の寺院	14 不明	N(=100.0)
初詣	39.5	16.5	8.4	1.5	1.1	0.3	3.8	0.3	5.8	7.7	5.5	1.3	5.7	2.0	526
節分	2.8	4.2	0.7	0.7	1.4	54.2	1.4	—	—	1.4	4.2	8.4	37.3	4.9	142
宮参り七五三	59.2	14.8	3.7	—	—	—	7.4	—	3.7	—	7.4	3.7	3.7	—	27
祭礼の日	33.3	25.9	3.7	1.2	1.2	2.4	—	—	4.9	1.2	14.8	4.9	12.3	2.4	81
十三参り	7.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14.2	42.8	64.2	14.2	14
厄払い	6.3	4.2	2.1	—	2.1	4.2	—	2.1	2.1	—	25.5	17.0	34.0	8.5	47
祈願	13.5	17.7	2.5	2.1	1.7	—	2.9	3.4	2.9	7.6	19.4	11.8	17.7	1.7	237
葬式・法事	—	—	—	—	—	—	0.7	0.7	0.7	—	4.1	11.6	78.0	4.8	146
結婚式	—	—	—	—	—	—	40.0	40.0	—	—	—	20.0	20.0	—	5
その他	5.6	8.9	—	0.7	1.1	—	1.1	0.7	1.8	2.9	9.7	10.8	53.3	2.2	268
不明	14.6	5.3	—	—	1.3	—	1.3	—	1.3	5.3	5.3	13.3	17.3	33.3	75
計	317 (42.8)	190 (25.7)	56 (7.5)	17 (2.3)	17 (2.3)	83 (11.2)	38 (5.1)	16 (2.1)	51 (6.9)	74 (10.0)	145 (19.6)	123 (16.6)	432 (58.4)	68 (9.2)	1,568

お宮参り・七五三参り・祭りの日には、他の神社に較べて、今宮神社へ行く割合がもっとも高い。北野神社の瑞饋(ずいき)祭は、西陣学区に比較的近い西ノ京に御旅所があることもあって、この日に出かける西陣学区の人びとの割合も高くなっている。

また、西陣学区妙蓮寺前町のように、御千度には、旧例に習って、春季は氏神、秋季は北野神社に参詣すること(「町中申固規約、第22条」明治23年1月)をつづけてきた町内もある。

七五三と並んで、子供の通過儀礼の一つ十三参りは、13歳の時1回切りの参拝であるから、母集団が七五三祝いプラス宮参りより小さいにもかかわらず、両者の実数の差はそれほどでもない。十三参りが七五三に劣らずなお盛んであることがよくわかる。しかも、十三参りの参拝対象として、寺院と答えたものが多く、したがって、その割合も高い。十三参りとは、男女とも13歳になると嵐山、渡月橋(法輪寺橋)近くの法輪寺(真言宗御室派)本尊虚空蔵菩薩へ3月13日か14日に参拝する慣習であるから、この数字の大部分が、この寺を指していると推定することができる。

何か願いごとをする祈願のための参拝は、各種参拝の中でも、初詣について多い。初詣と異なり、特別の願いごとをもって、自らの動機にしたがって、わざわざ社寺に参拝するのであるから、願いごとや志しのたてかたによって、社寺が選択されるためか、今宮神社への集中度も、他の参拝理由ほど高くはない。社寺の順位をみても、地元の今宮神社は、北野神社より少ないし、この両者とも、寺院全体やその他の神社よりも低い数字を示している。厄払いのための参拝となると、今宮神社・北野神社の選ばれる可能性がさらに低くなり、これら2社以外の神社や寺院への参拝が逆に高くなる。葬式や法事は、当然のことながら、住民が寺院に参拝する割合がいっそう大きくなる。

以上のように、西陣学区の住民は、対象社寺の専門分野をよく見極め、それに対応するような形式で参拝行動を行なっている。初詣・お宮参り・七五三・祭りには、今宮神社・北野神社へ詣で、節分には、吉田神社、十三参りには寺

院(法輪寺)、祈願や厄払いには、それぞれ願いごとになった社寺、法事や葬式には、浄土・真宗・日蓮系寺院にその要求を託す割合が高い。

この内、吉田神社への節分や法輪寺への十三参りは京都の特徴であり、祈願や厄払いは全国的な特徴であり、法事や葬式は、全国的・京都市・西陣学区的な特徴でもあるが、初詣・お宮参り・七五三・祭りと今宮神社の強い関係は、西陣学区の特徴である。

ii) 社寺参詣と社会的カテゴリー

イ. 社寺参詣と年齢

社寺参詣と年代別の相関については、今宮神社・社寺全体とも同様の結果を得た。10代や20代の若者は、社寺参詣とは無縁の割合が高く、ある年齢以上になると、加齢と共に参詣に行くことが困難となり、特に70歳以上の年齢グループの割合が小さくなる。年齢グループの中で、社寺参拝の割合がもっとも高いのは、40代で、50代がこれにつづいている(表Ⅶ-2-8)。

ロ. 社寺参詣と住居形態

今宮神社の場合、持ち家(土地つき)、持ち家(借地)、分譲マンション、民間借家に住む者は、賃貸マンション・アパート、公団住宅、社宅・公務員住宅、借間・下宿などの居住者に較べて、参詣の頻度が高い。両者の差は歴然としている。ところが、北野神社や今宮神社以外の神社になると、住居形態の種類と参詣回数の間には、特別の関連があるとはいえない。西陣学区では、参詣頻度からみるかぎり、持ち家(土地つき)の居住者が、今宮神社ともっとも強く結びついている(表Ⅶ-2-9)。

ハ. 社寺参詣と所得

今宮神社については、概ね、所得が高くなるにつれて、参詣頻度が高くなる傾向を示している。北野神社や今宮神社以外の神社になると、こうした傾向はみられない。つまり、参詣頻度と所得の間に特別の関係はない。したがって、西陣学区では、所得が高くなるにつれて、今宮神社とはとくに結びつきが強くなるのに、その他の神社との関係は、所得の高低によるのではない、ということが出来る(表Ⅶ-2-10)。

ニ. 社寺参詣と居住期間

今宮神社についていえば、第二次大戦終戦以後の居住者が、終戦前からの居住者より、参詣頻

度が小さい。ところが、北野神社や今宮神社以外の神社については、この傾向はみられない。

表Ⅶ-2-8 神 社 参 詣 と 年 齢

(MA %)

	1 今宮 神社	2 北野 神社	3 上賀茂 神社	4 下鴨 神社	5 白峰 神社	6 吉田 神社	7 平安 神宮	8 愛宕 神社	9 八坂 神社	10 上御霊 神社	11 伏見 稲荷	12 その他 の神社	N=(100.0)
1 0 代	11.8	—	5.9	17.6	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	—	—	23.5	17
2 0 代	15.4	15.4	17.9	5.1	2.6	5.1	5.1	5.1	10.3	—	—	10.3	39
3 0 代	46.1	25.8	11.2	5.6	3.4	4.5	5.6	2.2	7.9	1.1	6.7	22.5	89
4 0 代	51.4	33.1	11.6	3.3	3.3	16.0	8.3	2.2	6.1	—	12.7	27.1	181
5 0 代	48.6	28.9	3.5	—	3.5	16.2	3.5	—	7.5	1.2	12.7	15.6	173
6 0 代	46.1	23.5	6.1	—	1.7	11.3	7.0	1.7	6.1	—	11.3	18.3	115
70代以上	35.4	24.4	7.3	1.2	—	3.7	2.4	2.4	7.3	—	8.5	20.7	82
不 明	11.6	9.3	—	—	—	7.0	—	—	4.7	—	7.0	4.7	43
計	(42.4)	(25.7)	(7.8)	(2.3)	(2.4)	(11.2)	(5.3)	(1.8)	(6.9)	(0.4)	(10.0)	(19.5)	739

表Ⅶ-2-9 神 社 参 詣 と 住 居 形 態

(MA %)

	1 今宮 神社	2 北野 神社	3 上賀茂 神社	4 下鴨 神社	5 白峰 神社	6 吉田 神社	7 平安 神宮	8 愛宕 神社	9 八坂 神社	10 上御霊 神社	11 伏見 稲荷	12 その他 の神社	N(=100.0)
持家(土地付き)	57.1	28.7	9.1	2.8	2.5	11.4	5.0	1.5	5.0	0.8	13.2	23.6	394
持家(借 地)	50.0	5.0	5.0	—	—	15.0	5.0	5.0	—	—	15.0	35.0	20
分譲マンション	100.0	—	—	—	—	50.0	—	—	100.0	—	—	—	2
民間借家	41.5	31.5	6.2	—	1.5	10.0	5.4	2.3	7.7	—	8.5	14.6	130
賃貸マンション・アパート	14.3	21.4	7.1	7.1	—	—	7.1	—	10.7	—	7.1	10.7	28
公団住宅	8.6	24.3	5.7	1.4	7.1	14.3	8.6	—	15.7	—	7.1	14.3	70
社宅・公務員住宅	16.7	16.7	16.7	—	8.3	8.3	8.3	—	—	—	—	16.7	12
借 間・下 宿	8.0	28.0	4.0	—	—	12.0	—	4.0	16.0	—	—	12.0	25
そ の 他	28.0	4.0	12.0	12.0	—	12.0	4.0	8.0	—	—	—	20.0	25
不 明	3.0	6.1	3.0	—	—	9.1	3.0	—	3.0	—	3.0	6.1	33
計	(42.4)	(25.7)	(7.8)	(2.3)	(2.4)	(11.2)	(5.3)	(1.8)	(6.9)	(0.4)	(10.0)	(19.5)	739

表Ⅶ-2-10 神 社 参 詣 と 所 得

(MA %)

	1 今宮 神社	2 北野 神社	3 上賀茂 神社	4 下鴨 神社	5 白峰 神社	6 吉田 神社	7 平安 神宮	8 愛宕 神社	9 八坂 神社	10 上御霊 神社	11 伏見 稲荷	12 その他 の神社	N(=100.0)
100 万 未 満	20.8	28.3	3.8	—	—	9.4	—	—	9.4	—	9.4	13.2	53
100万～ 200万	22.4	16.5	4.7	5.9	2.4	9.4	2.4	2.4	9.4	—	9.4	21.2	85
200万～ 300万	39.8	24.3	12.6	1.9	2.9	15.5	9.7	1.9	9.7	—	11.7	19.4	103
300万～ 400万	41.5	28.3	7.5	0.9	2.8	14.1	3.8	3.8	8.5	—	10.4	16.0	106
400万～ 500万	59.3	38.5	13.2	4.4	2.2	9.9	6.6	2.2	7.7	1.1	8.8	17.6	91
500万～ 600万	61.1	16.7	9.3	3.7	5.6	11.1	3.7	1.9	7.4	1.9	20.4	24.1	54
600万～ 800万	62.0	32.0	4.0	—	2.0	16.0	12.0	—	2.0	—	12.0	20.0	50
800万～1,000万	60.6	30.3	12.1	6.1	3.0	9.1	9.1	3.0	3.0	3.0	15.2	24.2	33
1,000万～ 1,500万	48.0	32.0	16.0	4.0	—	12.0	8.0	—	4.0	—	16.0	36.0	25
1,500 万 以 上	70.8	37.5	8.3	—	4.2	8.3	8.3	—	12.5	—	4.2	62.5	24
不 明	27.0	16.5	1.7	—	1.7	7.0	1.7	0.9	2.6	—	2.6	8.7	115
計	(42.4)	(25.7)	(7.8)	(2.3)	(2.4)	(11.2)	(5.3)	(1.8)	(6.9)	(0.4)	(10.0)	(19.5)	739

今宮神社より頻度は少ないが、ほとんどすべての来住時期グループが、一様に参詣するというパターンを示している。今宮神社の場合、居住歴が27年以上と以下では、参詣頻度が著しく異なっているのに、今宮神社以外では、来住時期による差はほとんどないといつてよい。したがって今宮神社参詣についてのこの数字は、居住歴が長くなるにしたがって、地域との結びつきが強くなり、今宮神社氏子としての意識も強く働くようになってくることを示している(表Ⅶ-2-11)。

以上から、西陣学区における住居形態・居住期間・所得の相違による今宮神社参詣頻度の相違を要約すると次のようになる。①持ち家27年以上、高所得の居住者が、今宮神社へ頻繁に参詣する。②今宮神社以外の神社へは、ほとんどすべての人が、今宮神社ほど多くはないが、ほぼ同様の頻度で参拝にでかけている。③西陣学区の居住者は、他の神社に較べて今宮神社との結びつきがもっとも強い。

ホ. 仏教宗派と社寺参詣

仏教宗派と社寺参詣の関係をみると、今宮神社の場合、割合の高い方から、浄土宗・臨済宗・浄土真宗・曹洞宗・真言宗・日蓮宗とならび、もっとも割合の低いのは天台宗である。全体(739名)の平均42.4%より高い割合を示しているのは、浄土宗・臨済宗・浄土真宗・曹洞宗の鎌倉系の4宗であり、平均42.4%より低い割合の宗派は、天台宗・日蓮宗・真言宗の平安密教系と法華である。北野神社参拝の割合は、曹

洞宗が一番高く、以下、真言宗・浄土真宗・浄土宗・天台・日蓮・の順でつく。曹洞宗・浄土真宗・浄土宗の3宗派は、両神社とも参拝の割合が高く、天台と日蓮は、両神社とも参拝の割合が低い。他の神社についてみると、上賀茂神社の日蓮宗・浄土真宗の割合が大きい以外には、各神社参拝の宗派間の割合の差は大きくない。これに対し、寺院参拝の割合は、天台宗がもっとも高く、以下、臨済宗・浄土宗・真言宗・曹洞宗・浄土真宗・日蓮宗の順である。天台宗は、今宮・北野神社で割合が低かったのに、ここでは高い割合となっている。日蓮宗は、ここでも低い割合を示している(表Ⅶ-2-12)。

(3) 西陣学区における仏教宗派と住民の関係

i) 宗派別の住民と寺院

家の宗教に対する回答をみると、739人中家の宗派を挙げた633人の内訳は、表Ⅶ-2-13の通り、多い方から、浄土宗(191人, 25.8%), 真宗(163人, 22.1%), 日蓮宗(121人, 16.4%), 真言宗(38人, 5.1%), 臨済宗(38人, 5.1%), 曹洞宗(32人, 4.3%), 天台宗(8人, 1.1%)といった仏教宗団が並び、これに新宗教やキリスト教がつづいている。これら仏教教団全体では、591名、80.0%に達し、そのうち、浄土宗・真宗・日蓮宗系は特に多く、三者だけで475名、全体(739名)の64.3%となり、宗派名を挙げた633人の中で占める割合は、72.9%になる。

中京と右京では(表Ⅶ-2-14)、宗教を仏教と

表Ⅶ-2-11 神社参詣と居住期間 (MA %)

	1 今宮 神社	2 北野 神社	3 上賀茂 神社	4 下鴨 神社	5 白峰 神社	6 吉田 神社	7 平安 神宮	8 愛宕 神社	9 八坂 神社	10 上御霊 神社	11 伏見 稲荷	12 その他 の神社	N(=100.0)
明治以前	57.5	27.5	7.5	2.5	10.0	15.0	5.0	2.5	7.5	—	10.0	37.5	40
明治	50.6	31.2	5.2	—	2.6	15.6	2.6	1.3	3.9	—	16.9	22.1	77
大正	54.0	25.4	6.3	1.6	1.6	11.1	9.5	3.2	4.8	—	7.9	15.9	63
昭和元年～終戦	58.9	27.0	10.6	2.1	0.7	16.3	3.5	2.8	6.4	0.7	11.3	20.6	141
終戦～昭和29年	42.6	27.0	5.2	—	1.7	7.0	7.8	1.7	5.2	—	11.3	21.7	115
昭和30年～39年	36.2	24.6	4.3	2.9	2.9	11.6	2.9	—	7.2	1.5	11.6	11.6	69
昭和40年～49年	30.7	32.0	8.0	1.3	1.3	16.0	2.7	—	9.3	—	8.0	16.0	75
昭和50年以後	24.8	21.1	11.3	6.0	3.8	5.3	8.3	2.3	10.5	0.8	4.5	18.0	133
不明	15.4	3.8	7.7	3.8	—	—	—	—	3.8	—	11.5	15.4	26
計	(42.4)	(25.7)	(7.8)	(2.3)	(2.4)	(11.2)	(5.3)	(1.8)	(6.9)	(0.4)	(10.0)	(19.5)	739

表Ⅶ-2-12 宗 派 と 社 寺 参 詣

(MA %)

	1 今宮 神社	2 北野 神社	3 上賀茂 神社	4 下鴨 神社	5 白峰 神社	6 吉田 神社	7 平安 宮	8 愛宕 神社	9 八坂 神社	10 伏見 稲荷	11 その他 の神社	12 寺院	13 なし	14 お参 りして いない	15 不明	N(= 100.0)
天 台 宗	37.5	25.0	12.5	—	12.5	12.5	25.0	—	25.0	25.0	62.5	125.0	—	—	—	8
真 言 宗	39.5	34.2	5.3	5.3	—	5.3	—	—	13.2	10.5	2.6	76.3	10.5	7.9	5.3	38
曹 洞 宗	46.9	34.4	9.4	9.4	6.3	12.5	18.8	—	—	9.4	18.8	71.9	3.1	9.4	9.4	32
臨 済 宗	52.6	23.7	2.6	—	—	13.2	7.9	2.6	2.6	13.2	23.7	86.8	7.9	10.5	7.9	38
浄 土 宗	54.5	28.3	7.9	2.1	2.6	13.1	5.2	2.6	4.7	10.5	23.6	83.2	4.2	7.3	18.8	191
浄土真宗	51.5	32.5	11.6	3.1	4.9	11.5	6.1	2.5	10.4	12.3	22.7	69.3	5.5	6.7	5.5	163
日 蓮 宗	38.0	21.5	21.5	0.8	0.8	13.2	2.5	0.8	9.1	12.4	24.0	67.8	8.3	16.5	14.0	121
天 理 教	40.0	20.0	20.0	20.0	—	—	20.0	—	—	—	20.0	20.0	20.0	20.0	—	5
大 本 教	100.0	50.0	50.0	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—	50.0	—	—	—	2
カトリック	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	2
プロテ スタント	—	25.0	—	—	—	—	—	—	12.5	—	—	87.5	12.5	37.5	—	8
そ の 他	28.0	16.0	4.0	—	—	—	12.0	4.0	—	4.0	12.0	60.0	24.0	8.0	4.0	25
な し	5.9	41.2	5.9	—	—	5.9	—	—	—	—	17.6	29.4	11.8	35.3	35.3	17
わからない	15.0	—	5.0	—	5.0	5.0	—	—	10.0	5.0	15.0	15.0	15.0	40.0	25.0	20
不 明	14.5	10.1	2.9	1.4	—	7.2	1.4	1.4	4.3	2.9	10.1	14.5	52.2	7.2	33.3	69
計	(42.4)	(25.7)	(7.8)	(2.3)	(2.4)	(11.2)	(5.3)	(1.8)	(6.9)	(10.0)	(20.2)	(66.6)	(11.5)	(10.8)	(13.9)	739

答えた者は、全体の67.2%、古くからの市街地である中京では72.6%、後に市街に編入された右京（現西京を含む）は62.3%であった。今回の調査で得た80.0%という数字は、右京はいうにおよばず、中京をも上回っている。

中京・右京の場合（表Ⅶ-2-14）、宗派所属者の内訳は、浄土宗28.4%、（西山系を含めると29.5%）、浄土真宗27.8%、日蓮宗8.6%と鎌倉系の3つが上位を占め、順位も同様である。以下、真言5.9%、曹洞3.0%、臨済2.7%、天台1.4%とつづき、曹洞と臨済が入れかわっているだけである。ところが、上位3者（浄土宗・真宗・日蓮宗）を前回の調査（右京・中京）と

表Ⅶ-2-13 家 の 宗 教

天 台 宗	8	1.8%	天 理 教	5	0.7%
真 言 宗	38	5.1	大 本 教	2	0.3
曹 洞 宗	32	4.3	カトリック	2	0.3
臨 済 宗	38	5.1	プロテスタント	8	1.1
浄 土 宗	191	25.8	そ の 他	25	3.4
真 宗	163	22.1	な し	1	1.3
日 蓮 宗	121	16.4	不 明	69	9.3
計				739	100.0

今回の西陣学区の調査とを比較すると、浄土宗と答えた者の割合は、西陣学区より右京や中京の方が大きく、真宗は西陣学区と右京ではほぼ同率、西陣学区や右京より中京で大きく、日蓮宗

表Ⅶ-2-14 宗 派 意 識

	1 天台 宗	2 真言 宗	3 曹洞 宗	4 臨済 宗	5 浄土宗	6 西山系 浄土宗	7 浄土 真宗	8 日蓮宗	9 その他 の仏教	10 天理 教	11 大本 教	12 その他 の神道	13 カトリック	14 プロ テスタ ント	15 その 他の基 督教	16 D・K	計
中 京	3	11	3	7	52	2	61	20	2	0	1	4	0	5	0	14	185人
	1.6	5.9	1.6	3.8	28.2	1.1	33.0	10.8	1.1	0.0	0.5	2.2	0.0	3.0	0.0	7.6	100.0%
右 京	4	11	8	3	53	2	42	12	4	5	0	1	4	3	0	33	185人
	2.2	5.9	4.3	1.6	28.6	1.1	22.8	6.5	2.2	2.7	0.0	0.5	2.2	1.6	0.0	17.8	100.0%
計	7	22	11	10	105	4	103	32	6	5	1	5	4	8	0	47	370人
	1.4	5.9	3.0	2.7	28.4	1.1	27.8	8.6	1.6	1.4	0.3	1.4	1.1	2.2	0.0	12.7	100.0%

注 拙稿「京都市民の宗派意識」『佛教大学大学院研究紀要』第4号、昭和50年、p. 157. どの宗派に属しますか、の回答。

は、右京より中京で大きく、西陣ではさらにそれより大きくなる。西陣学区では、日蓮宗の割合がひじょうに高くなっている。逆に、浄土宗と真宗の占める割合は低くなっている。つまり、上位2者と日蓮宗の差が中京区や右京区よりも小さくなっていることがわかる。

寺院宗派別内訳(表Ⅶ-2-15)によれば、上京区には、日蓮系の寺院が、浄土系の寺院とほぼ同数あり、浄土宗1宗と較べると、日蓮系の方が1ヶ寺多い。京都市全体の仏教寺院の内、日蓮系寺院の占める割合は、14.5%であるのに、上京区だけでは、31.1%にも達する。昭和48年当時の行政区、北区・左京区・中京区・東山区・下京区・南区・右京区・伏見区と比較すると、上京区での日蓮系寺院は、どの行政区よりきわだって多い。

日蓮系の有力寺院は、もともと洛内の南部(旧下京)に多く、近世16世紀中葉に流行した洛内日蓮宗21本山詣の対象寺院21ヶ寺(表Ⅶ-2-16)の内、13ヶ寺は下京にあり、上京は6ヶ寺を数えるにすぎない。ところが、天文法華の乱(1536年)で多くの日蓮系寺院が、堺へ移り、数年後、京都に戻り、復興に努めたが、往時の勢いを取り戻すことはついにできなかった(『古寺巡礼辞典』)。このため、上述21ヶ寺のうち京都市内に現在も残る日蓮系の本山は、15ヶ寺(表Ⅶ-2-17)を数え、この内8ヶ寺は、上京区にある。しかも、西陣学区内に、妙蓮寺(妙蓮寺前町)と本隆寺(紋屋町)があり、隣接学区には、本法寺・妙顕寺・妙覚寺が位置する。もとの下京には本能寺1ヶ寺のみが、現在もとどまっている。

これは、後にみるように、明治時代やそれ以前から当地に居住する者、すなわち長い居住歴の者ほど、墓所が上京区内の近接地にある割合が高いという事実を考えると、上京区での日蓮系住民が占める割合の高いことをある程度説明している。つまり、日蓮系の寺院が多いというのは、墓所もそれに応じて多いということであり、したがって日蓮系の宗派に属するものも多かった、ということの意味している。事実、日蓮系に属するもので、西陣学区における明治以前からの居住者は、浄土宗や真宗の明治以前

表Ⅶ-2-15

京都市と上京区における寺院宗派別内訳

	上 京 (%)	京 都 市 (%)
真 言 宗	10 (4.4)	88 (5.8)
浄 土 宗	70 (30.7)	396 (26.0)
西 山 系	6 (2.6)	159 (10.4)
臨 済 宗	21 (9.2)	228 (15.0)
曹 洞 宗	7 (3.1)	41 (2.7)
真 宗	34 (14.9)	288 (18.9)
天 台 宗	9 (3.9)	71 (4.7)
黄 檗 宗	0 (0.0)	14 (0.9)
時 宗	0 (0.0)	16 (1.1)
日 蓮 宗	71 (31.1)	221 (14.5)
計	228 (100.0)	1,522 (100.0)

注 昭和48年度「京都府宗教法人数調」京都府総務部文教課により製表。

表Ⅶ-2-16 洛内日蓮宗21本山詣寺院

上 京	妙顕寺 住本寺 妙伝寺 妙覚寺 頂妙寺 本満寺
下 京	本圀寺 妙満寺 立本寺 本能寺 妙蓮寺 上行院 本法寺 妙泉寺 本隆寺 本禅寺 本覚寺 宝国寺 学養寺
位 置 不確定	弘経寺 大妙寺

注 中尾堯編『古寺巡礼辞典』東京堂出版、昭和48年、p. 268。

表Ⅶ-2-17

京都市内の日蓮宗の本山15ヶ寺

寺 名	所 在 地
本満寺	上京区寺町通今出川上ル
妙顕寺	上京区寺ノ内通新町西入ル
頂妙寺	左京区仁王門通大菊町
妙伝寺	左京区東大路二条下ル
立本寺	上京区七本松通仁和寺街道上ル
本圀寺	山科区御陵大岩町6
本能寺	中京区寺町御池下ル
寂光寺	左京区仁王門通東大路西入ル北門前町469
妙蓮寺	上京区寺ノ内通大宮東入ル妙蓮寺前町875
本隆寺	上京区智恵光院通五辻上ル紋屋町
本禅寺	上京区寺町通広小路上ル
要法寺	左京区新高倉通孫橋上ル
妙満寺	左京区岩倉幡枝町
本法寺	上京区小川通寺ノ内上ル
妙覚寺	上京区新町通鞍馬口上ル

注 中尾堯編『前掲書』pp. 269～272。

からの居住者よりも、わずかながら、その割合が高い。それにもかかわらず、西陣学区において、日蓮系の居住者が、浄土や真宗より少ないのは、日蓮系の宗派が現代まで多くの分派を出したこと、京都市内全体では、2者と日蓮系寺院数の開きがもう少し大きいことに由来していると思われる。

ii) 宗派・墓所と社会的カテゴリー

イ. 宗派と墓所

墓の所在地は、全体としてみた場合、京都市内にある割合が、7割近くを占め、上京区・北区に限ってみても、4割近くに達している(表Ⅶ-2-18)。墓は、「一般には、死体、遺骨、遺髪、遺爪などを葬った場所や、死者の記念のために建てられた建造物、墓碑、墓石を指し」(小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版会、1973年、P.602)、死者の冥福を祈るための対象であるから、居住地に近い方が便利であり、したがって墓所は各宗派の寺院や教会と直接結びつく場合が多い。

京都洛内の仏教寺院は、真宗を除いて、墓地を境内地あるいはその近接地に設置している。したがって、今回の調査でも、仏教各宗派・天理教・大本教・キリスト教などに属する人びとの間で、墓所についてはそれぞれ異なる数字を

示している。たとえば、真宗の墓は、洛内東南部の西大谷(東山区五条通り東大路東入ル、本願寺派)や東大谷(東山区円山、大谷派)内に集中して建てられているため、西陣学区・上京区・北区内における墓の割合が、他の仏教各派と比較しても、もっとも小さい。したがって、上の地域以外の京都市に建てられた墓の割合は、他のどの仏教宗派の割合よりも図抜けて大きい。浄土宗は、真宗・日蓮宗に較べて、上京区内に墓のある割合がもっとも高く、日蓮宗は西陣学区の墓の割合が、諸宗派の中でもっとも高い。逆に上京区・北区以外の上京市における墓の割合が、真宗に較べて、浄土宗・日蓮宗はともに低く、特に日蓮宗は3宗の中ではもっとも低い。つまり、日蓮宗の墓が学区に集まり、真宗の墓が京都洛内の周辺部(東山区)に集中し、浄土宗の墓が両者の中間部(上京区)に置かれる割合が大きい。

その他の宗派では、曹洞宗寺院は、上京区内における実数は小さいが、大きな寺院の含まれていることを、表の数字が示している。真言・臨済は、京都市全域に寺院が様に分散していて、両者は比較的類似した数字を示している。

他は実数が少数であって、数字の意味を見出し難いが、天理教・大本教・キリスト教は、他

表Ⅶ-2-18 宗 派 と 墓 所 (％)

	西陣学区	上京区	北 区	上京・北区を除く京都市	京都府北部	京都府中部	京都府南部	大阪府	兵庫県	奈良県	滋賀県	和歌山県	その他	なし	不明	N(=100.0)
天台宗	—	50.0	12.5	12.5	12.5	—	12.5	—	—	—	—	—	—	—	—	8
真言宗	—	7.9	26.3	23.7	5.3	2.6	—	2.6	2.6	—	2.6	—	13.2	10.5	2.6	38
曹洞宗	—	50.0	15.6	6.3	9.4	—	3.1	—	6.3	—	—	—	6.3	3.1	—	32
臨済宗	—	28.9	15.8	31.6	2.6	—	—	—	2.6	—	2.6	—	5.3	2.6	7.9	38
浄土宗	2.6	34.0	16.2	31.4	4.2	1.0	1.6	0.5	—	0.5	1.0	0.5	4.2	1.6	0.5	191
浄土真宗	3.1	7.4	9.8	53.4	1.8	3.1	0.6	—	—	—	3.1	0.6	10.4	6.1	0.6	163
日蓮宗	19.8	33.1	8.3	19.0	2.5	2.5	1.7	0.8	—	—	1.7	—	5.0	3.3	2.5	121
天理教	—	—	20.0	20.0	—	—	—	20.0	—	20.0	—	—	20.0	—	—	5
大本教	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
カトリック	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
プロテスタント	—	—	—	75.0	—	—	—	—	—	—	—	—	12.5	12.5	—	8
その他	12.0	16.0	4.0	24.0	4.0	4.0	—	—	—	—	4.0	4.0	12.0	8.0	8.0	25
なし	—	5.9	—	5.9	5.9	—	—	—	—	—	—	—	29.4	52.9	—	17
わからない	—	—	—	15.0	5.0	—	—	—	—	—	—	—	45.0	20.0	15.0	20
不明	1.4	7.2	14.5	8.7	1.4	1.4	1.4	—	—	—	1.4	—	8.7	7.2	46.4	69
計	38 (5.1)	161 (21.8)	93 (12.6)	219 (29.6)	25 (3.4)	13 (1.8)	9 (1.2)	4 (0.5)	4 (0.5)	2 (0.3)	13 (1.8)	3 (0.4)	65 (8.8)	44 (6.0)	46 (6.2)	739

宗派と同様、京都市内の割合が高いにもかかわらず、上京区・西陣学区には、一件も見当たらないという特色をみせている(表Ⅶ-2-18)。

ロ. 宗派と居住期間

宗派と来住時期の関係をみると、浄土宗は、明治以前～昭和戦前からの居住者が30%以上の高率に達し、それ以後は割合が小さくなっていく。真宗は、明治以前を除くと、戦前のグループは割合が小さく、戦後は昭和49年までのグループの割合が大きい。日蓮宗の場合、各居住歴グループの差は少ないが、強いていえば、戦前からの居住者の占める率が高い(表Ⅶ-2-19)。

ハ. 宗派と住居形態

宗派と住居形態の関係を、今回の調査でみると、浄土宗は持ち家(土地つき)、持ち家(借地)、民間借家の割合が高く、これに対して、賃貸マ

ンション・アパート、公団住宅、社宅・公務員住宅、借間・下宿などの割合は低い。真宗は持ち家(土地つき)、公団住宅の割合が高く、分譲マンションを除いて、あとはすべて割合が低い。日蓮系の場合、持ち家(借地)、民間借家、社宅・公務員住宅の占める割合が高く、賃貸マンション・アパートや公団住宅の割合が低く、二つのグループの中間に、持ち家(土地つき)や借間・下宿がある。他の宗派については、実数も小さくなるため、その意味は明瞭でないけれども、住居形態による差は、あまりみられない。宗派なしは、持ち家(土地つき)ではほとんどみられないのに、賃貸マンション・アパート、公団住宅、借間・下宿での割合が高い(表Ⅶ-2-20)。

表Ⅶ-2-19 宗 派 と 居 住 期 間

(%)

	天台 宗	真言 宗	曹洞 宗	臨済 宗	浄土宗	浄土 真宗	日蓮宗	天理 教	大本 教	カトリック	プロテ スタント	その他	なし	わから ない	不明	N(=100.0)
明 治 以 前	2.5	2.5	—	—	30.0	32.5	25.8	—	—	—	—	2.5	2.5	—	2.5	40
明 治	2.6	3.9	5.2	6.5	41.6	16.9	14.3	—	—	—	—	1.3	—	1.3	6.5	77
大 正	—	6.3	9.5	4.8	34.9	15.9	19.0	—	—	—	—	3.2	—	—	6.3	63
昭和元年～終戦	—	3.5	3.5	7.1	30.5	19.1	23.4	1.4	1.4	—	—	3.5	—	1.4	5.0	141
終戦～昭和29年	1.7	7.0	1.7	7.0	20.9	30.4	18.3	0.9	—	—	0.9	5.2	—	—	6.1	115
昭和30年～39年	1.4	4.3	5.8	7.2	26.1	23.2	14.5	—	—	—	1.4	2.9	1.4	1.4	10.1	69
昭和40年～49年	—	5.3	5.3	2.7	17.3	33.3	12.0	—	—	—	4.0	4.0	2.7	2.7	10.7	75
昭和50年以後	1.5	6.8	5.3	3.0	18.0	15.8	9.0	1.5	—	0.8	2.3	3.8	9.0	10.5	12.8	133
不 明	—	3.8	—	3.8	11.5	11.5	11.5	—	—	3.8	—	—	3.8	—	50.0	26
計	8 (1.1)	38 (5.1)	32 (4.3)	38 (5.1)	191 (25.8)	163 (22.1)	121 (16.4)	5 (0.7)	2 (0.3)	2 (0.3)	8 (1.1)	25 (3.4)	17 (2.3)	20 (2.7)	69 (9.3)	739

表Ⅶ-2-20 宗 派 と 住 居 形 態

(%)

	天台 宗	真言 宗	曹洞 宗	臨済 宗	浄土宗	浄土 真宗	日蓮宗	天理 教	大本 教	カトリック	プロテ スタント	その他	なし	わから ない	不明	N(=100.0)
持家(土地付き)	1.0	3.9	4.6	6.9	29.7	25.9	16.8	0.8	—	—	0.8	2.8	0.8	0.3	6.3	394
持家(借 地)	—	—	5.0	—	30.0	5.0	25.0	—	—	—	—	—	—	15.0	20.0	20
分譲マンション	—	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	2
民 間 借 家	0.8	6.9	3.8	4.6	32.3	18.5	19.2	0.8	0.8	0.8	—	5.4	0.8	0.8	4.6	130
賃貸マンション・アパート	3.6	14.3	10.7	7.1	17.9	14.3	3.6	—	—	—	—	—	17.9	7.1	3.6	28
公 団 住 宅	1.4	7.1	2.9	2.9	15.7	27.1	10.0	—	—	1.4	5.7	1.4	8.6	4.3	11.4	70
社宅・公務員住宅	—	—	8.3	—	8.3	8.3	25.0	—	—	—	—	8.3	—	41.7	—	12
借 間・下 宿	4.0	4.0	8.0	—	12.0	16.0	16.0	4.0	—	—	4.0	8.0	8.0	12.0	4.0	25
そ の 他	—	12.0	—	—	12.0	16.0	36.0	—	—	—	—	12.0	—	8.0	4.0	25
不 明	—	6.1	—	3.0	9.1	9.1	—	—	3.0	—	—	—	—	—	69.7	33
計	8 (1.1)	38 (5.1)	32 (4.3)	38 (5.1)	191 (25.8)	163 (22.1)	121 (16.4)	5 (0.7)	2 (0.3)	2 (0.3)	8 (1.1)	25 (3.4)	17 (2.3)	20 (2.7)	69 (9.3)	739

二. 宗派と年収, 年齢, 職業, 家族形態

宗派と年間収入の関係を検討すると, 500万円以上は, 浄土宗世帯の中の32.0%, 真宗は25.8%, 日蓮宗は25.7%を占めている。全体の世帯で500万円以上の占める割合は, 25.2%であるから, これら三者は平均より若干高い割合を示しているが, 各宗派間の差はあまりないといえよう。なお, 年収600万以上では, 日蓮宗が浄土宗や真宗の率を上回る(表Ⅶ-2-21)。

宗派と年齢の相関は, 特に著しい有意差を見出すことはできない(表Ⅶ-2-22)。

宗派と職業のクロスからも, とりわけ, ある宗派とある職業がとくに結びついているという結果を見出すことはできなかった。浄土宗や真宗に属する世帯主が, 平均に較べて, 生産工程従業員である割合が高いこと, 真宗の世帯主は

管理職や販売職に就きやすいことが数字の上からは表われている(表Ⅶ-2-23)。

宗派と家族形態の関係も特別なものはみられない。ただ, 単独世帯の占める割合は, 浄土宗・真宗・日蓮宗で低く, これらの宗派以外では高い(表, 略)。

ホ. 墓所の所在地と居住期間

各居住期間グループとも昭和50年以降を除けば, 京都市内に墓所のある割合が6割を超えている。そして墓所の所在地が, 西陣学区内と答えたものを上京区内に含めると, 上京区に墓所のある者は, 明治以前からの居住者の57.5%, 明治時代の44.2%, 大正時代の38.1%, 昭和元年～終戦までの31.2%, 終戦～昭和29年の26.1%, 昭和30～39年の15.9%, 昭和40～49年の21.3%, 昭和50年～の9.1%となり, 時代が新

表Ⅶ-2-21 宗 派 と 年 収 (%)

	天台宗	真言宗	曹洞宗	臨済宗	浄土宗	浄土真宗	日蓮宗	天理教	大本教	カトリック	プロテスタント	その他	なし	わからない	不明	N(=100.0)
100 万 未 満	3.8	9.4	—	5.7	17.0	9.4	15.1	7.5	—	—	—	5.7	1.9	15.1	9.4	53
100万～ 200万	1.2	9.4	5.9	1.2	20.0	24.7	17.6	—	—	—	—	4.7	5.9	4.7	4.7	85
200万～ 300万	1.0	5.8	3.9	1.9	28.2	17.5	22.3	—	1.0	1.0	1.9	6.8	5.8	1.0	1.9	103
300万～ 400万	0.9	3.8	3.8	5.7	31.1	27.4	15.1	—	—	0.9	0.9	0.9	1.9	1.9	5.7	105
400万～ 500万	—	1.1	3.3	8.8	26.4	33.0	15.4	1.1	—	—	—	3.3	—	1.1	6.6	91
500万～ 600万	3.7	11.1	1.9	5.6	37.0	24.1	5.6	—	—	—	3.7	—	3.7	1.9	1.9	54
600万～ 800万	—	6.0	4.0	2.0	26.0	22.0	26.0	—	—	—	—	4.0	2.0	—	8.0	50
800～万1,000万	—	3.0	6.1	15.2	33.3	18.2	18.2	—	—	—	—	3.0	—	—	3.0	33
1,000万～ 1,500万	—	4.0	8.0	4.0	32.0	24.0	28.0	—	—	—	—	—	—	—	—	25
1,500 万 以 上	4.2	—	8.3	8.3	37.5	25.0	1.7	—	—	—	—	4.2	—	—	4.2	24
不 明	—	2.6	6.1	5.2	15.7	15.7	12.2	—	0.9	—	2.6	2.6	—	2.6	33.9	115
計	8 (1.1)	38 (5.1)	32 (4.3)	38 (5.1)	191 (25.8)	163 (22.1)	121 (16.4)	5 (0.7)	2 (0.3)	2 (0.3)	8 (1.1)	25 (3.4)	17 (2.3)	20 (2.7)	69 (9.3)	739

表Ⅶ-2-22 宗 派 と 年 齢 (%)

	天台宗	真言宗	曹洞宗	臨済宗	浄土宗	浄土真宗	日蓮宗	天理教	大本教	カトリック	プロテスタント	その他	なし	わからない	不明	N(=100.0)
1 0 代	—	5.9	11.8	—	5.9	5.9	—	—	—	—	—	5.9	5.9	23.5	35.3	17
2 0 代	2.6	5.1	5.1	2.6	17.9	15.4	5.1	—	—	—	—	7.7	15.4	15.4	7.7	39
3 0 代	1.1	4.5	5.6	5.6	19.1	24.7	11.2	1.1	—	1.1	—	2.2	6.7	2.2	14.6	89
4 0 代	1.1	3.9	2.2	4.4	25.4	26.0	18.2	0.6	0.6	0.6	2.2	3.9	2.2	1.7	7.2	181
5 0 代	0.6	3.5	4.6	6.9	30.1	24.9	19.7	1.2	—	—	1.2	2.9	—	0.6	4.0	173
6 0 代	0.9	8.7	2.6	4.3	26.1	25.2	20.9	0.9	—	—	—	3.5	—	1.7	5.2	115
60代以上	2.4	8.5	8.5	1.2	35.4	17.1	18.3	—	1.2	—	1.2	1.2	—	1.2	3.7	82
不 明	—	2.3	2.3	14.0	20.9	2.3	7.0	—	—	—	2.3	4.7	—	2.3	41.9	43
計	8 (1.1)	38 (5.1)	32 (4.3)	38 (5.1)	191 (25.8)	163 (22.1)	121 (16.4)	5 (0.7)	2 (0.3)	2 (0.3)	8 (1.1)	25 (3.4)	17 (2.3)	20 (2.7)	69 (9.3)	739

表Ⅶ-2-23 宗 派 と 職 業

(%)

	天台宗	真言宗	曹洞宗	臨済宗	浄土宗	浄土真宗	日蓮宗	天理教	大本教	カトリック	プロテスタント	その他	なし	わからない	不明	N(=100.0)
事 務 職	2.0	4.0	6.0	4.0	30.0	8.0	20.0	—	—	—	4.0	4.0	2.9	4.0	8.0	50
販 売 職	—	2.9	2.9	6.7	27.9	29.8	18.3	—	—	1.0	—	3.8	2.9	—	3.8	104
運輸・通信	12.5	—	—	12.5	25.0	12.5	12.5	—	—	—	—	—	—	—	25.0	8
生産工程 従事者	—	6.8	2.6	5.1	32.5	26.5	15.4	—	1.7	—	—	3.4	1.7	1.7	2.6	117
保 安 職	—	50.0	—	—	30.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
サービス職	7.4	7.4	3.7	—	29.6	37.0	—	—	—	—	—	—	3.7	7.4	3.7	27
専 門 職	—	7.5	3.8	5.7	18.9	17.0	26.4	5.7	—	—	3.8	9.4	1.9	—	—	53
技 術 職	3.0	9.1	9.1	6.1	27.3	12.1	15.2	—	—	—	—	—	6.1	3.0	9.1	33
管 理 職	—	5.1	2.6	6.4	28.2	34.6	14.1	—	—	—	—	—	1.3	1.3	6.4	78
農林・漁業	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
そ の 他	—	5.9	17.6	5.9	17.6	29.4	11.8	—	—	—	5.9	—	—	—	5.9	17
無 職	—	5.7	7.5	1.9	22.6	26.4	20.8	1.9	—	—	1.9	3.8	—	5.7	1.0	53
不 明	1.5	3.6	4.1	5.1	20.9	13.8	15.3	0.5	—	0.5	1.0	4.1	2.0	4.6	23.0	196
計	8 (1.1)	38 (5.1)	32 (4.3)	38 (5.1)	191 (25.8)	163 (22.1)	121 (16.4)	5 (0.7)	2 (0.3)	2 (0.3)	8 (1.1)	25 (3.4)	17 (2.3)	20 (2.7)	69 (9.3)	739

表Ⅶ-2-24 墓 所 と 居 住 期 間

(%)

	西 陣 学区内	上京 区内	北区内	上京区・ 北区外の 京都市内	京都府北 部	京都府中 部	京都府南 部	大阪 府	兵庫 県	奈良 県	滋賀 県	和歌 山県	その他	なし	不明	N(=100.0)
明 治 以 前	7.5	50.0	7.5	22.5	—	7.5	—	—	—	—	—	—	—	2.5	2.5	40
明 治	9.1	35.1	13.0	35.1	—	—	1.3	—	—	—	1.3	—	—	—	5.2	77
大 正	1.6	36.5	17.5	31.7	3.2	—	—	—	—	—	—	—	4.8	1.6	3.2	63
昭和元年～終戦	9.2	22.0	22.0	33.3	0.7	2.1	1.4	1.4	—	—	—	0.7	1.4	3.5	2.1	141
終戦～昭和29年	6.1	20.0	14.8	33.0	0.9	1.7	1.7	—	—	0.9	3.5	—	5.2	7.8	4.3	115
昭和30年～39年	1.4	14.5	10.1	43.5	2.9	1.4	1.4	—	2.9	—	2.9	—	5.8	7.2	5.8	69
昭和40年～49年	4.0	17.3	8.0	33.3	2.7	1.3	1.3	—	—	—	5.3	—	10.7	12.0	4.0	75
昭和50年以後	0.8	8.3	4.5	15.0	12.8	2.3	1.5	3.8	1.5	0.8	0.8	1.5	30.8	10.5	8.3	133
不 明	7.7	11.5	7.7	11.5	—	—	—	0.8	—	—	3.8	—	3.8	—	50.0	26
計	38 (5.1)	161 (21.8)	93 (12.6)	219 (29.6)	25 (3.4)	13 (1.8)	9 (1.2)	4 (0.5)	4 (0.5)	2 (0.3)	13 (1.8)	3 (0.4)	65 (8.8)	44 (6.0)	46 (6.2)	739

表Ⅶ-2-25 墓 所 と 住 居 形 態

(%)

	西 陣 学区内	上京 区内	北区内	上京区・ 北区外の 京都市内	京都府北 部	京都府中 部	京都府南 部	大阪 府	兵庫 県	奈良 県	滋賀 県	和歌 山県	その他	なし	不明	N(=100.0)
持家(土地付き)	4.8	27.9	15.2	34.8	1.3	2.3	1.3	0.3	—	0.3	1.3	—	3.3	4.6	2.8	394
持家(借 地)	10.0	10.0	15.0	15.0	5.0	—	5.0	—	—	—	5.0	—	20.0	15.0	—	20
分譲マンション	—	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
民 間 借 家	5.4	28.5	14.6	31.5	1.5	0.8	0.8	0.8	0.8	—	1.5	0.8	6.2	5.4	1.5	130
賃貸マンション・アパート	—	7.1	10.7	25.0	7.1	—	—	—	3.6	—	—	—	39.3	3.6	3.6	28
公 団 住 宅	2.9	7.1	5.7	27.1	7.1	1.4	2.9	—	1.4	—	2.9	2.9	17.1	15.7	5.7	70
社宅・公務員住宅	8.3	8.3	—	8.3	—	8.3	—	—	8.3	—	—	—	41.7	—	16.7	12
借 間・下 宿	—	8.0	4.0	8.0	20.0	—	—	4.0	—	4.0	0.1	—	28.0	12.0	8.0	25
そ の 他	28.0	4.0	4.0	16.0	16.0	—	—	4.0	—	—	—	—	20.0	4.0	4.0	25
不 明	—	—	6.1	12.1	3.0	3.0	—	—	—	—	6.1	—	—	—	69.7	33
計	38 (5.1)	161 (21.8)	93 (12.6)	219 (29.6)	25 (3.4)	13 (1.8)	9 (1.2)	4 (0.5)	4 (0.5)	2 (0.3)	13 (1.8)	3 (0.4)	65 (8.8)	44 (6.0)	46 (6.2)	739

表Ⅶ-2-26 墓 所 と 年 収

(%)

	西陣 学区内	上京 区内	北区 内	上京区・ 北区以外 の京都市	京都府 北部	京都府 中部	京都府 南部	大阪 府	兵庫 県	奈良 県	滋賀 県	和歌 山県	その他	なし	不明	N(= 100.0)
100 万 未 満	5.7	13.2	9.4	24.5	3.8	—	1.9	1.9	—	1.9	—	—	26.4	7.5	3.8	53
100万～ 200万	11.8	16.5	7.1	21.2	8.2	1.2	1.2	—	2.4	—	1.2	2.4	17.6	5.9	3.5	85
200万～ 300万	7.8	24.3	12.6	31.1	5.8	1.0	1.0	1.9	—	—	—	—	8.7	5.8	—	103
300万～ 400万	7.5	18.9	14.2	34.0	2.8	2.8	0.9	—	—	—	1.9	—	7.5	7.5	1.9	106
400万～ 500万	2.2	16.5	14.3	38.5	1.1	3.3	1.1	—	1.1	—	4.4	1.1	7.7	6.6	2.2	91
500万～ 600万	3.7	22.2	22.2	33.3	—	—	1.9	1.9	1.9	—	—	—	1.9	11.1	—	54
600万～ 800万	2.0	30.0	16.0	34.0	—	2.0	—	—	—	—	2.0	—	4.0	8.0	2.0	50
800万～1,000万	—	33.3	9.1	39.4	—	3.0	6.1	—	—	—	3.0	—	—	3.0	3.0	33
1,000万～ 1,500万	4.0	44.0	16.0	28.0	—	—	—	—	—	—	8.0	—	—	—	—	25
1,500 万 以 上	4.2	45.8	12.5	25.0	—	4.2	—	—	—	—	4.2	—	4.2	—	—	24
不 明	1.7	17.0	9.6	20.9	5.2	1.7	0.9	—	—	0.9	0.9	—	7.0	3.5	30.4	115
計	38 (5.1)	161 (21.8)	93 (12.6)	219 (29.6)	25 (3.4)	13 (1.8)	9 (1.2)	4 (0.5)	4 (0.5)	2 (0.3)	13 (1.8)	3 (0.4)	65 (8.8)	44 (6.0)	46 (6.2)	739

しくなる程、上京区内の割合が小さくなっている。墓が、上京区・北区を除く京都市内にある割合は、居住期間がながくなる程、高くなるというのではないのに、上京区に墓のある割合は来住時期が古いほど高いということからすると、一般的に墓は、かつては、居住地に近接していたものと思われる(表Ⅶ-2-24)。

へ. 墓所の所在地と住居形態

持ち家(土地つき)、分譲マンション、民間借家、持ち家(借地)に住む者は、京都市内に墓所を持つ者の割合が高い。これに対して、社宅・公団住宅、賃貸マンション、借間・下宿の住民は、他府県に墓のある場合が高い。持ち家(借

地)の居住者も他府県に墓所をもつ割合がかなり高い。前者の定着性、後者の移動性をうかがい知ることができる(表Ⅶ-2-25)。

ト. 墓所の所在地と年収

全体として、年収高低と墓所の所在地の間には、ある程度の関係はあるということがいえる。所得の高い居住者ほど、京都市内に墓をもつ割合も高くなる。とくに年収が600万を超える居住者は、上京区に墓をもつ割合が高い。同様、墓をもたないと答えた者も、各年収層にわたって一様にみられるが、年収が800万を超えるグループでは、墓をもたない割合が著しく低い(表Ⅶ-2-26)。(加藤信孝)